

42 水田の潜在能力発揮等による農地周年有効活用技術の開発

【604(0) 百万円】

対策のポイント

小麦、なたね等の冬作物の高品質化技術、水田の高度化技術、超低コスト作物生産技術等の農地の周年有効活用に係る研究開発を実施します。

<背景／課題>

食料供給力を向上させるためには、水田の汎用化を促進するとともに、麦、なたね等の冬作物の生産を拡大し、冬期の農地の有効活用を図ることが必要です。このためには、パン・中華めん用小麦や暖地向けなたね等のニーズに応じた多様な品種の開発や、湿害等の水田特有な問題を克服するための水田高度化技術の開発が求められています。

政策目標

- パン・中華めん用小麦や暖地向けなたね等、高品質な冬作物品種を10以上開発
- 大豆、小麦等の湿害回避技術を開発

<主な内容>

①冬作物の高品質化技術の開発

現在国産シェアが1%程度のパン・中華めん用途向けの高品質小麦や、なたねの生産拡大に向けた暖地向けなたね等の冬作物品種を開発し、冬期の農地の有効活用の促進を図ります。

②水田高度化技術の開発

水田に特有な湿害等の問題を回避し生産力を最大限に高めるために、土壌の養水分制御技術等を活用した水田の高度化技術を開発するとともに、高度化ほ場を活用した作物生産技術体系を確立します。

③超低コスト作物生産技術の開発

作業機の汎用化、一貫作業体系の構築、地域ごとの条件に適合した品種の導入等により、地域ごとに合理的な輪作体系を構築することで、省力化及び生産コストの大幅な削減を可能とする作物生産モデルを確立します。

水田の潜在能力発揮等による農地周年有効活用技術の開発 604(0) 百万円

補助率：定額

事業実施主体：民間団体等

お問い合わせ先：農林水産技術会議事務局研究開発官（食料戦略）

(03-6744-2214 (直))

水田の潜在能力発揮等による農地周年有効活用技術の開発

背景

我が国の食料自給率は41%
我が国の水田の耕地利用率93%
水田約250万haのうち、冬期の作付けは約20万ha

農地の周年有効活用を可能にし、さらに、生産性を向上させることで、食料自給力を強化する必要

研究内容

- 冬期の水田の有効活用:「冬作物の高品質化技術の開発」
 - ー 麦、なたね等の冬作物を高品質化し、水田の冬期の作付け拡大を図る
 - ・パン・中華めん用の高品質小麦品種の開発
 - ・暖地向けなたね品種の開発及び輪作体系の構築
- 水田の装置化:「生産性の飛躍的向上に資する水田高度化技術の開発」
 - ー 湿害等の水田特有の問題を克服し、生産性の飛躍的向上を可能にする
 - ・土壌水分や養分の制御技術の開発
- 土地利用型農業の超低コスト化:「生産コスト5割削減を可能とする超低コスト作物生産技術の開発」
 - ー 土地利用型農業における、作業競合の回避、大幅な作業の省力化と生産コスト削減を可能にする
 - ・地域の条件に応じた合理的輪作体系の確立



製パン性の向上

パン用小麦の高品質化



暖地向けなたね品種



制御有り

なし

土壌水分制御による大豆
の生産性向上



作業競合を回避する栽培技術

- ・麦類、なたね等の冬作物の高品質化により、冬期の作付け拡大を促進: **耕地利用率向上**
- ・ほ場の高度化による新たな水田農業システムの構築により、耕地利用を高度化(温暖地: 2年3作→2年4作、3年5作): **高い土地生産性**
- ・生産コストを現状の5割程度削減する超低コスト作物生産技術を確立: **高い労働生産性**

我が国農業の競争力と食料自給力の強化に貢献